

分野：自然への愛着 生態系・生物多様性

「よしみ里山プロジェクト」

環境アドバイザー

田畠 麻帆

対象 県内親子参加者 28名/全体 34名

所要時間



4時間

場所 埼玉県比企郡吉見町田甲

実施時期

令和2年11月15日

概要

みんなで守ろう！育てよう！よしみ里山プロジェクト

この活動は、埼玉県比企郡吉見町の雑木林を所有する山主から、人手不足で荒廃した林を何とか出来ないかと相談を受けたことがきっかけで2012年より保全活動を開始。数年間の手入れにより貴重な野草や野鳥の観察まで回復。2018年より年6回、親子向け野外ワークショップ活動を実施し、森林ESDや里山保全活動を継続している。

プログラムの
ねらい

テーマ どんぐりであそび、育てよう

身近な植物「木」を知らない親子はいないが、木のどんなことを知っているか？と問われたとき、私たちは、どんなことを知っているだろう。秋、雑木林に実を落とす「どんぐり」を通じて、どんな場所でどのように育つのか木が育つ環境に関心を寄せどんぐりをポットに植える。里山の四季とその循環から自然環境への理解を深めていく。

プログラムの内容

1 10:30~12:00 (90分)

午前活動 オリエンテーション、雑木林を散策、どんぐり拾い、腐葉土の土づくり
雑木林の里山の特徴やどんぐりについて、オリジナルワークブックを活用して説明

2 13:00~14:30 (90分)

午後活動 どんぐりを選別し腐葉土を篩にかけ土づくり、生分解性ポットにどんぐりを植える
どんぐりゴマ、どんぐり笛、などのクラフトづくり

・日本の里山は、森林がもたらす豊かな恵みを暮らしに活かしてきた日本人独特の関わりの場。人と生き物が共に生きる自然環境である。活動地は、クヌギやコナラなどが大きく成長しており、適度な伐採による萌芽更新を繰り返している。手入れされた森林環境と、鬱蒼とした森林環境が比較もできる。萌芽更新の様子を観察し、どんぐりとの成長速度の違いとその理由を伝える。また、どんぐりをポットに植えて家庭で発芽させ、活動地のような大きな木となるまで成長するための時間を想像し、木の一生を考えてみる。

・みる、きく、さわる、かぐ、あじわう、五感をつかうショートワークも毎回実施。

受講者の反応

・虫が好き、自然体験をしたい、親子で参加し自然を学びたいなど、多様なニーズが背景にあり、単回、連続全6回でも自由参加としたが、全プログラムを通じ参加を希望する家族が全体の8割となった。

・どんぐりを水に浮かべ、穴あきや、虫食いを見て除き、自分で植え付け、芽が出るまで自宅で里親として育てる活動を行う。概ね好評。一連の活動に積極的に参加する親子の様子がみられた。

環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要



【写真上】 オリエンテーションの様子

活動の目的、本日のプログラム、
オリジナルワークシートで活動の説明

【写真中】 どんぐりを探そうの様子

雑木林のなかでどんぐりを探してみよう
どんな木の下にあるでしょう

【写真下】 どんぐりを育成ポットに定植

落ち葉を篩にかけ腐葉土と土を混ぜる
生分解性のポットにどんぐりを植え付ける
自宅の水をあげ育ててもらい、また戻す

